

学報

(昭和四十六年一月〜昭和四十六年十二月)

昭和四十六年度国文学科講義題目

国文学概論

久保 重

国文学史概説

原田 芳起

国文学研究

物語文学の形成

原田 芳起

中世歌人論

安田 章生

和歌史論

安田 章生

謡曲

西畑 実

西鶴

木村三四吾

樋口一葉

山根 賢吉

近代短歌

安田 青風

大正の文学

嘉部 嘉隆

国文学講読

万葉集

安田 青風

宇津保物語―楼の上―

原田 芳起

源氏物語―花宴―

久保 重

紫式部集

竹内美千代

栄華物語

山本 和子

新勅撰和歌集

西畑 実

平家物語

嘉部 嘉隆

芭蕉

木村三四吾

浄瑠璃

横山 正

○二月二十五日 卒業論文発表会。四回生

予餞会。

○三月二十日 昭和四十五年度卒業式。津

○十月一日 『会報15』発行。

田康子ほか百四名が卒業。新大阪ホテル

○十月二十二日 二回生学外授業、時代祭

にて謝恩会。『檀蔭国文学第八号』発

○十一月二十五日 第十回国文学会総

行。

会。講演・吉永孝雄氏。『人形浄瑠璃鑑

○四月十二日 入学式。

賞のポイント』

○五月十五日 二回生学外授業、葵祭見

研究発表

学。

二回生『川端康成』

○六月七日〜十九日 教育実習。四回生九

小坂寿子、佐藤公美子、東雲香代

十七名が檀蔭高校・中学及び他校にわか

子、吉岡美幸。

れて実習。

三回生『大江健三郎』

○六月二日 第十三回国文学会評議員会。

松田千恵子、田中洋美、中井令子

会報・国文学会名簿の発行、総会、同窓

○十一月二十八日 国文学科同窓会。参加

会等について協議。

者二十八名、原田先生、安田章生先生、

○七月三十一日 「国文学会名簿」発行。

竹内先生、杉藤先生と共に晩秋の快い一

日を京都で過ごす。

日

国文学演習

源氏物語—橋姫—

源氏物語—若菜—

源氏物語—桐壺—

無名草子

宗祇紀行文

島崎藤村

晶子と啄木

物語・小説・評論

女流文学

近代文学

国語学の諸問題

国語学概論

国語学史概説

国語法概論

国語表現論

話しことば

国語科教科教育法

昭和四十五年卒業論文題目

井原西鶴

万葉の色相について

万葉集と古今和歌集の枕詞について

久保 重

竹内美千代

山本 和子

原田 芳起

安田 章生

嘉部 嘉隆

山根 賢吉

原田 芳起

久保 重

嘉部 嘉隆

杉藤美代子

杉藤美代子

原田 芳起

島田 勇雄

杉藤美代子

山上ミチ子

杉藤美代子

浅井 明子

荒野 康子

更級日記に於ける菅原考標の女

普話研究

横光利一研究

小林一茶の研究—小林一茶の生活とその

信貴山縁起絵巻雑考

枕草子における漢文学の影響

宇治拾遺物語・古今著聞集研究

—世間話を中心として—

春雨物語論

平中の人間像—平中物語を中心として—

滝沢馬琴の研究

枕草子を通して見る清少納言

堤中納言物語研究—物語史上からみて—

立原道造論

流動する文学—古本説話集第五十八話

音霊験説話を中心として—

源氏物語研究

太宰治研究—「新釈諸国噺」を中心

井上登志美

池田美英子

池田 恵

泉 清美

泉 美紀子

板谷多香子

乾 三紀子

今市 典子

上野 恵子

上原 京子

植田 和子

小原真紀子

加藤 和子

加藤八重子

加藤 和子

加藤 和子

加藤 和子

加藤 和子

加藤 和子

加藤 和子

加藤 和子

加藤 和子

谷崎潤一郎初期作品論

島崎藤村「新生」考察

芭蕉の挨拶の句の発想法における時代的変遷

島崎藤村「家」について

平家物語 人物論と史実性

西行と月

九条武子の歌とその生涯

芭蕉と旅

萩原朔太郎小論 漂泊者の哲学

石川啄木小説研究

十六夜日記研究

曾根好忠における文体的研究

西鶴 好色一代男・二代男における遊女論

漱石研究「明暗」論

大伴坂上郎女研究

源実朝研究

福島県方言の音声的研究

堀辰雄研究

遠藤周作論—その序章

遠藤周作論—その序章

遠藤周作論—その序章

鎌田 栄子

神谷三保子

唐渡 芳美

川端 康子

川辺 順子

河原 博子

木下きぬ江

木村 泰子

喜多 牧子

岸田 知子

北村 清美

工藤 恒子

黒田 三代

小鳥佐恵子

後藤 益子

是永 陽子

近藤 充子

佐々木由美

佐味 俊子

狭川 ふみ

狭川 ふみ

狭川 ふみ

高橋和巳「憂鬱なる党派」論考

式子内親王―その生涯と歌について―

正宗白鳥研究

世阿弥の本質論―花の意義―

女の文学と平安朝

小川未明とその作品について

兼好と徒然草

竹取物語研究

北条民雄研究

山村暮鳥研究

宮内卿研究

東歌と防人歌

栄花物語小論

林美美子論

式子内親王について―歌風の時代的変遷を

中心に―

鈴木三重吉

二葉亭四迷研究

徒然草論―人間描写からの探究

芥川龍之介論

酒井 和乃

雑賀 良子

島 章子

島岡佐江子

嶋田美江子

須山 絹代

杉野香代子

鈴木真紀子

関本 節子

田中久美子

高橋 直子

竹村 恵子

津田 康子

塚本美根子

筒井 妙

榎野 京子

富田千津子

中司ひさ子

中野ツタ代

三馬の文学

芭蕉研究

日常語を考える―慣用語を主として―

義太夫節「いろ」の音声学的研究

徒然草小論―兼好の道―

心敬におけるわびの精神

竹取物語小論

仮名文字文学における土佐日記

道綱母と考標女

和泉式部日記

有島武郎小論

和泉式部日記小論

島崎藤村研究

夏目漱石研究

徳富蘆花研究

近松門左衛門―曾根崎心中一考察―

浄瑠璃史研究

近松悲劇の研究―おさんと小春―

廣川 孝子

中道 慶子

中家 和代

夏目 陽子

西浦 順子

西角 美帆

西谷ひとみ

西村 友恵

西村 治子

西村 典子

野口 順子

野口 佳子

野村佐和子

能美 裕子

馬場満智子

橋本 牧子

樋口 恭子

樋口 紀子

廣川 孝子

夏目漱石研究

蜻蛉日記 道綱母の人間像

晶子の中の二面性―恋衣を中心にして―

清少納言小論

晶子とみだれ髪

仏御前にみる中世の女性像

上田秋成研究―贈答歌を通して小沢芦庵との友情をみる―

正法眼蔵における文芸性

和泉式部研究―宗教的心情について―

古譚にみる中島敦論

谷崎潤一郎研究

雨月物語 浅茅が宿の比較的考案

近松門左衛門考証

万葉集 大津皇子

芥川文学におけるエゴイズムについて

縁起の文学と絵巻

為家の平淡美歌論

和泉式部考

廣崎寿美子

福崎 広子

藤本安紀子

本多ルミ子

真鍋 照代

正井 恵子

松井紀世子

松井富佐子

松江世津代

松尾みち子

松村 明子

松本 節子

壬生 和子

見市 和子

南 紀子

宮沢 啓子

村上 香

森田 拡美

- 西鶴研究 森西賀代子  
 西鶴研究―町人物について― 森脇 春美  
 谷崎潤一郎研究 八木 逸子  
 文学にあらわれた笑 滑稽本―社会的考 八木 由美  
 西鶴研究 浮世草子作家への出発 敷上 康子  
 西行法師研究 山田英三子  
 国木田独歩研究 山中 孝子  
 本居宣長の古道論 山中 治代  
 近世後期小説における一考察―洒落本を中 山本ひろえ  
 心に― 和木田輝子  
 枕草子研究 若松 循子  
 国木田独歩研究 若松 循子
- 昭和四十六年度卒業論文題目**
- 樋口一葉「にぎりえ」論 綾田 照代  
 源氏物語の研究 荒川真由美  
 内田魯庵―「文学者となる法」 中心に― 井筒理栄子  
 冥途の飛脚考察 伊三野真子  
 宇治の大君試論 飯島志津子  
 夏目漱石 池田 勝子
- 鈴木三重吉研究 池田 夏子  
 宇陀方言 泉 多津子  
 「悲しみの代価」考 今城 幸子  
 芭蕉研究 今高 敏江  
 蜻蛉日記―その女性心理を探る― 今西麻由美  
 「平家物語」研究 于 学芳  
 謡曲における引歌について 氏本 治美  
 算物語研究 浦田美千代  
 平家物語における無常観 小方 博子  
 与謝野晶子 妻・母・女 小川 恵子  
 平家物語における女性像 小川 洋子  
 平家物語における木曾義仲 大浦 和子  
 宇津保物語女性論 大久保康子  
 親鸞 大沢 澄子  
 「志賀直哉」の生涯とその文学 大塚 教恵  
 芥川龍之介研究 大西 治美  
 清少納言の人間像―「枕草子」における考 大西 洋子  
 夏目漱石研究―「夢十夜」における一考 岡村 優子  
 物語文学の祖 竹取物語研究 岡本 好美
- 中野重治と転向小説 川久保百合子  
 萩原朔太郎研究「氷鳥」の評価について 川端 涼世  
 山村暮鳥研究「聖三稜玻璃」城戸崎由美子 北埜 都得  
 徒然草と兼好 お伽草子―「庶民小説」小考― 北村千代美  
 柿本人麿論―その時代と心― 黒田 規子  
 蜻蛉日記における道綱母について 小林由美子  
 「民話」研究 小林 葉子  
 梶井基次郎の世界 小間井正子  
 夏目漱石研究―ころろ― 小山 順子  
 宇津保物語の研究―あて宮の人間像― 古賀 一栄  
 近松の女性「冥途の飛脚」の梅川を通して 上阪 隆子  
 藤原俊成歌論とその作品 佐野 寿子  
 紀州路における万葉 阪部千恵子  
 十六夜日記研究及び阿仏尼雑考 坂井千寿子  
 太宰治研究 白子起佐子  
 柿本人麿―石見の国より妻と別れて来る時

- の歌一
- 心中考―近松の作品をもとに 世良 節子  
 近松門左衛門 妹尾千枝子  
 蜻蛉日記の研究 田川 朝子  
 宮沢賢治研究 田林 京子  
 方丈記に於ける鴨長明 滝本やすの  
 京都言葉のやわらかさ 竹沢 教子  
 芥川龍之介「王朝物」の一考察 竹田 修子  
 堀辰雄―その生死観― 武田美恵子  
 樋口一葉研究 谷口恵美子  
 有島武郎研究 近倉 澄子  
 更級日記に現われた孝標女の生涯 辻 三千子  
 菊池寛における小考察 辻 光子  
 教師としての石川啄木 辻井 幸江  
 堀辰雄論 辻本 美紀  
 北村透谷研究 辻本 絹子  
 蜻蛉日記中心王朝の女性と文学 寺口 節子  
 宇津保物語 天雲三和子  
 更級日記の夢 戸田喜美子  
 樋口一葉研究 徳永喜美代  
 内藤美知子
- 士代歌謡の発生 中尾 陽子  
 平家物語灌頂巻について 中田都紀子  
 有島武郎研究「或る女」小論 中村 順子  
 斜陽と太宰治 新居 咲子  
 「とはずがたり」―後深草院二条を中心  
 に― 新美 幸子  
 河内弁の音声学的研究 西尾あおい  
 「暗夜行路」研究 西尾 雅子  
 世阿弥の花 西岡三知子  
 紅葉二作品の文学性 西野 悦子  
 西鶴「好色一代男」研究 野口 成子  
 横光利一―彼の道徳に対する姿勢につ  
 て― 浜口 光子  
 讃岐典侍日記研究 原 秀子  
 「和泉式部日記」作者論争 平井 恵子  
 伊勢物語の研究 広田 佳子  
 藤村詩の中の透谷 不動寿美子  
 清少納言終焉伝説 深尾 由子  
 堤中納言物語 福田 真弓  
 とりかへばや物語 福留 歩  
 謡曲の詞章おもしろ 福永 栄子  
 額田王 藤井 雅子  
 島崎藤村研究 若菜集ができるまでの影響 藤井 雅子
- 夏目漱石研究―色彩という一面からの考  
 察― 藤田 幸子  
 一葉の研究 藤本とも子  
 嘉村礪多研究 古川佐和子  
 芭蕉の旧里 堀内 栄子  
 立原道造研究「萱草に寄す」 前沢 志紀  
 藤原定家 松井 峰子  
 近松文学における心中 その意味と背景 松田 京子  
 宮沢賢治研究 松矢 恵  
 世界における「源氏物語」 三好 啓子  
 堀辰雄研究 溝端 良美  
 歎異抄雑考 南野 智子  
 好色五人女研究 宮崎 義悟  
 宇治十帖における浮舟についての一考察 宮林 淑子  
 樋口一葉「にぎりえ」に現われたる女性像 向井 京子  
 狭衣物語の一考察 村山 知子  
 枕草子における清少納言の女性像 八十田律子  
 徒然草 矢野真由美  
 葉師寺佐江子

初期の作品から見た樋口一葉 山際 陽子

「土」主題に於ける長塚節の立場

山崎美奈子

国木田独歩のひととなり―『運命論者』を

中心にして― 弓場 幹子

相聞にみる孤悲 女性の立場から

堀辰雄論

吉川紀美子

平家物語に於ける女性

太宰治「罪の意識」についての一考察

蟹工船論

堀辰雄論

横田 初枝

横矢千鶴代

吉井真実子

吉川紀美子

国字問題一般

晶子における情熱と憂ひの構造―みだれ髪

を中心にして―

徳富蘆花 ―その文学観―

若山牧水研究「別離」

有職故実と清少納言

吉田美津穂

吉田 光子

吉田 康子

和田日佐子

若林多恵子

受贈 函 書 昭和四十六年一月～四十六年十二月

愛知大学国文学 第十一号

愛知大学国文学会

青山語文 創刊号

青山学院大学日本文学会

跡見学園国語科紀要 第十九号

跡見学園国語科研究会

跡見学園短期大学紀要 第七・八集

跡見学園短期大学

梅花女子大学文学部紀要 第七号

梅花女子大学文学部

国文学研究 第六号

梅光女学院短期大学国語国文学会

人文学論集 第二・三・四・五号

仏教大学図書館

人文学 第百二十一号 (文化学科特集)

同志社大学人文学会

文化学年報 第十九・二十号

同志社大学文化学会

玉藻 第七号

フェリス女学院大学国語国文学会

文芸と思想 第三四号

福岡女子大学文学部

藤女子大学国文学雑誌 第九・十号

藤女子大学国語国文学会

学園論集 第17・18・19号

北海学園大学

義仲寺 第48・49・50・51・52・53・54・55・56・57・58・59号

義仲寺史蹟保存会

国語国文学会誌 第十四号

学習院大学国語国文研究室

学習院女子短期大学紀要 第VIII号抜刷国語

国文学篇

学習院女子短期大学国文学研究室

国語国文学研究 第四十六号

熊本大学法文学部国語国文学会

国文学放 第五五・五六号

広島大学国語国文学会

国語国文研究 第四六・四七号

北海道大学国文学会

実践文学 第四一・四二号

実践文学会



- 金沢大学語学・文学研究 第二号  
 金沢大学教育学部国語国文学会  
 日本文芸研究 第二二卷第一・二号  
 関西学院大学日本文学會  
 日本文芸学 第六号  
 日本文芸学会  
 国文学 第四五号  
 関西大学国文学會  
 女子大國文 第六十・六十一・六十二号  
 京都女子大学国文学會  
 語文研究 第二九号  
 九州大学国語国文学會  
 金城國文 第四六・四七号  
 金城学院大学国文学會  
 甲南大学紀要(文学編) 第三号  
 甲南大学  
 甲南國文 第十八号  
 甲南女子大学国文学會  
 高知女子大國文 第五・六・七号  
 高知女子大学国語国文学會  
 学苑 第373・374・375・376・377・378・379・  
 380・381・282・383・384号  
 昭和女子大学光葉會
- 国学院雜誌 第七十一卷第十一・十二号、  
 第七十二卷第一・二・三・四・五・六・  
 七・八・九・十号  
 国学院大学  
 国学院大學紀要 第九卷  
 国学院大学  
 国立国語研究所年報 第22号  
 国立国語研究所  
 野州国文学 第六号  
 野州国文学 第六号  
 国学院大学栃木短期大学国文学會  
 武庫川國文 第三号  
 武庫川女子大学国文学會  
 語文 第三四・三五号  
 日本大学国文学會  
 国語国文学 第二八号  
 名古屋大学国語国文学會  
 名古屋大学教養部紀要 別刷 第十五輯  
 名古屋大学教養部国文学研究室  
 日本文体論研究 第十四・十五・十六号  
 日本文体論協會  
 ノートルダム清心女子大学紀要 第四号  
 ノートルダム清心女子大学  
 並木の里 第四号
- 金子正真  
 文学史研究 第十二号  
 大阪市立大学国語国文学研究室  
 人文研究 第二二卷第二分冊  
 大阪市立大学文学會  
 学大國文 第一四号  
 大阪教育大学国語国文学研究室  
 共同研究  
 大阪教育大学国語学科  
 国語研究 創刊号  
 大阪教育大学大学院国語教育専攻  
 大阪城南女子短期大学研究紀要 第六卷  
 大阪城南女子短期大学  
 語文 第二十九号  
 大阪大学文学部国文学研究室  
 女子大文学 第二二号  
 大阪女子大学国文研究室  
 大妻國文 第二号  
 大妻女子大学国文学會  
 大妻女子大学文学部紀要 第三号  
 大妻女子大学文学部  
 國文 第三四・三五号  
 お茶の水女子大学国文学研究室

- 立教大学日本文学 第二六号  
立教大学日本文学会  
文芸論叢 第七卷
- 立正女子大学短期大学部 文芸科  
滋賀大国会 第八号  
親和国文 第四号  
親和女子大学国語国文学会  
文林 第五号  
松蔭女子学院大学術研究会  
静岡女子大学国文研究 第四号  
静岡女子大学国語国文学会  
白珠 第26卷第2・3・4・5・6・7・  
8・9・10・11・12号  
白珠社
- 成城文芸 第六〇号  
成城大学文芸学部研究室  
成城国文学論集 第三輯  
成城大学大学院文学研究科  
成蹊国文 第四号  
成蹊大学文学部日本文学科  
成蹊大学文学部紀要 第六号  
成蹊大学文学部
- 專修国文 第六・八・九号  
專修大学国語国文学会  
国文白百合 第二号  
白百合女子大学国語国文学会  
植生野国文 第一号  
四天王寺女子大学国文学会  
国文鶴見 第六号  
鶴見女子大学日本文学会  
鶴見女子大紀要 第八号  
鶴見女子大学日本文学会  
国文学論考 第七号  
都留文科大学国語国文学会  
青須我波良 第三・四号  
帝塚山短期大学日本文芸研究室  
日本文学研究 第三号  
帝塚山学院大学文学部日本文学会  
国文学漢文学論叢 第一六輯  
東京教育大学国語国文学研究室  
短期大学紀要 第二号  
東洋大学短期大学  
文学論藻 第四五号  
東洋大学国語国文学会  
東海学園国語国文 第二号
- 東海学園女子短期大学国語国文学会  
潮流 創刊号  
潮流同人  
平安朝文学研究 第三卷第一号  
早稲田大学国文学会平安朝文学研究会  
学術研究 第一九号  
早稲田大学教育学部  
国文学研究 第四三・四五集  
早稲田大学国文学会  
古典と近代文学 第十・十一号  
有精堂出版株式会社



執筆者紹介

原田 芳起 本学教授

久保 重 本学教授

西畑 実 本学助教授

嘉部 嘉隆 本学助教授

杉藤 美代子 本学講師

山本 和子 本学講師

西浦 順子 本学講師

本学国文学科  
昭和四十六年三月卒業

樟蔭国文学 第九号

昭和四十七年三月十五日印刷  
昭和四十七年三月二十日発行

編集者 大阪樟蔭女子大学  
国文学会  
(代表者 原田芳起)

印刷所 大阪市東区元伊勢町五三六  
共進社印刷株式会社

発行所 東大阪市菱屋西二五八  
大阪樟蔭女子大学  
国文学会